

黒田航平さん

●田沼小学校 6年

未来の自分は発明家

ぼくの将来の夢は、発明家になることです。発明家になったら、社会に役立つ発明品を作りたいです。例えば、高齢のおじいちゃんやおばあちゃんが楽に生活できるマシンを作りたいです。そのために、たくさん勉強をして、いろいろな体験をして、発想を豊かにしていきたいです。それから、ノーベル賞をとる発明家になって、おじいちゃんやおばあちゃん、両親を幸せにしたいです。夢に向かってがんばります！



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



先月から各種団体等の総会や講演会などが数多く開催されています。私も時間の許す限り出席させていただき、多くの方と会場で接することで幅広いご意見を市政運営に取り入れていきたいと考えています。

さて、本市では総合計画に基づく「まちづくり」を推進しています。今年度からは平成30年4月をスタートとする第2次佐野市総合計画の策定に取り組んでまいります。第2次総合計画は本市の今後12年間の「まちづくり」の大きな方向性を定める重要な計画となりますので、計画の策定にあたり、市民の皆さんから本市の将来に対するご意見をお聞きしたいと思います。今月下旬から地区別に懇談会を開催しますので、ぜひ、地元の懇談会に参加していただき、皆さんの声をお聞かせください。

今月16日には佐野市文化会館で、スポーツジャーナリストの二宮清純さんを講師に迎え、佐野市スポーツ立市講演会を開催します。本市では「スポーツ立市」をリーディングプロジェクトに掲げ、夢や感動、勇気を与え、郷土愛や一体感を育む「スポーツの力」を活かしたまちづくりを進めています。今回の講演会を機に、スポーツを通じて、人々の交流と地域の活性化に何が必要なのか参加者の皆さんと一緒に考え、「官民協働によるまちづくり」につなげたいと思います。入場無料です、皆さんご来場をお待ちしています。

しばらく梅雨空が続きます。ここ数年、雨の降り方が以前とは違い局地的な雨や記録的な豪雨も増えていますので、河川の氾濫や土砂災害などに十分注意していただき、万一に備え、ご家庭での防災対策の再確認をお願いします。

岡部正英



©AKS

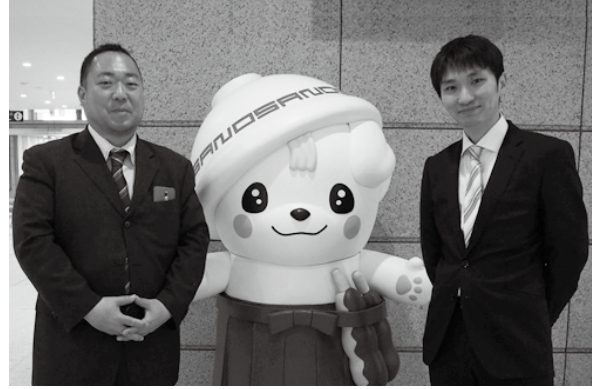
今回の表紙 「佐野ブランド姫・福士奈央さん」

アイドルグループSKE48チームEのメンバーとして活動する福士奈央さん。
平成27年2月に佐野ブランド姫に就任して以来、出身地である佐野市を各所でPRしています。

キラリ★

話題の「ひと」

○プロフィール
平成28年4月、佐野市の
中心市街地活性化に取り組
む地域おこし協力隊員に就
任。
現在、フェイスブックで
「佐野市地域おこし協力隊」
として情報発信中!



池澤 智則さん 横手 貴史さん

地域おこし協力隊員として

●佐野市の中心市街地活性化に取り組む地域おこし協力隊員を志望されたのはどうしてですか？

(池澤) 大学進学で佐野を離れてから、帰郷する度にその魅力を感じていました。海外での生活で、そうした魅力に加え観光やインバウンド、グルメなどの可能性も大いにあると感じていましたので、志望しました。

(横手) 前職では学校教職員として、学生と地域社会との交流イベントなどを企画していました。この経験を通じて、自分でも魅力ある地域社会づくりに貢献したいと感じるようになり、妻の出身地でもある佐野市の活性化のお手伝いができたらと志望しました。

●実際、就任されて一カ月、中心市街地の印象はどうですか？

(池澤) 少子高齢化や環境の変化など、確かにかつての賑わいは薄れているかもしれません。しかし、ユニークな活動をされている方、頑張っている方がたくさんいることを知りました。

内外にPRできるものもたくさんあると感じました。

(横手) 中心市街地を回って見て、歴史と伝統のある佐野のまちなかを愛していて「まちなかをもっと元気にしたい」と感じました。

い、盛り上げていきたい」と考えている方がたくさんいらっしゃるのだと実感しました。

●今後どのような取り組みをしていきたいですか？

(池澤) これまでの経験を活かし、「魅力をもっと掘り起こし、さのをもっと元気に！」という想いで、取り組んでいきます。佐野市にはすばらしい「人」「モノ」「場所」がたくさんあります。悲観する必要なんてありません。地域の魅力を、皆さんと一緒に「見つけ、発信していきたい」と思っています。

(横手) 佐野市には、まちなかのにぎわい創出への情熱を持った方が大勢います。今後はそのような人たちや、中高生をはじめとする若い方と協力して佐野の魅力を発信し、まちなかの活性化、そして定住促進につなげていきたいと思っています。

佐野には外国人の視点から見ても魅力的なコンテンツが多くあります。国際交流の推進、また、インバウンドコンテンツの作成などに取り組んでいきたいと思っています。

お二人の今後の活動に、ご協力をよろしく願います。



フリーネ(わるいね)は ありがとうの意味

人から贈り物などを受けると「ありがとう」ということばを用いて感謝の意をあらわします。よりよいねいにいうときには「ありがとう」が「ありがとうございます」などといえます。昭和20年頃まで、佐野の子どもたちは一般に「オキニ」といっていました。心を込めていうときには「ナ(ー)」を添えて「オキニナ(ー)」といいました。オキニは関西方言ですが外の地域にも伝わり、広く使われるようになりました。佐野には昔から感謝の意をあらわすことばに、「フリーネ」と「スマネーネ」があり、とても強い勢力を持っていました。そのため「オキニ」を積極的に受け入れようとはしませんでした。

「めずらしいものをこんなにいただいて…。いつもフリーネ」

申し訳ない(ね)の意が「悪い(ね)」ということばに置き換えられ、それが訛ってフリーネとなりました。久し振りにあった北海道出身の知人から、おみやげをもらったとき、「あらっ、フリーネ」といったら「何が悪いの？」といわれたというのです。フリーネの用法を知らない地方の人が聞いたら、ちよつと首をかき上げるのも無理からぬことですね。

申し訳ない(ね)と同じ意味をもつことばに「済まない(ね)」があります。これが訛ると「スマネーネ」となり、感謝の意をあらわすことばとして使われます。子どもたちは今では「ありがとう(ごさいます)」というようになりましたが、中・高年齢者の多くは今なお「フリーネ」「スマネーネ」といっています。

(市民記者 森下喜一)

